

天草の方言聞き取り記録

天草市の鶴田さん 第7版完成

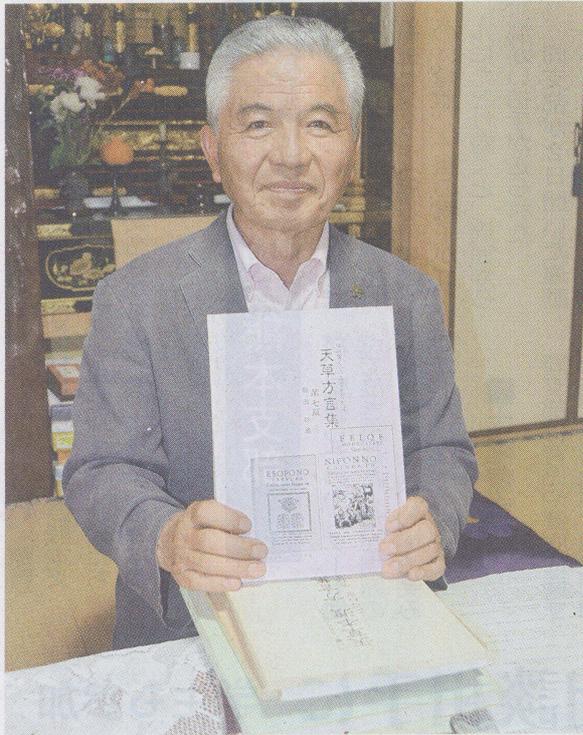
「失われていく言葉残したい」

天草市本町下河内の洋服リフォーム店経営、鶴田功さん(72)が、天草地方の方言の記録を続けている。1997年から自費出版している方言集は増補を重ね、第7版が完成した。

30代のころ、洋服の行商で天草各地を回っていた鶴田さんは、地域によって言葉が違つことに興味を持った。90年、旧本渡市で開かれた県民文化祭で方言の弁論大会に出場。本格的に収集しようとした。高齢者から聞き取った方言をまとめるようになった。

第7版はB5判、387ページで「いたちくう」(行ってさましょ)など、約5万6千語を収録。巻末では、クロとコノシロという魚の名を語呂合わせした「親が苦労(愚)すれば子の白うなす(親の苦労を子どもは何とも思わない)」など、天草地方のことわざも紹介している。100部作成。学校や図書館などに贈る。ホームページも開設しており、第7版の内容を掲載しているほか、方言の一部を音声で聞くことができる。鶴田さんは「失われていく方言を記録として残していきたい」と話している。

(久間孝志)



完成した第7版を手にする鶴田功さん＝天草市

鶴田功 作品



天草方言集初版(1979)～第八版(2014)

天草方言で読む古典集



DVD 天草方言集 天草俚語集

天草方言で読む古典集

天草方言で読む近代小説集

天草本邑のあゆみ

天草本邑の民話

「知らん方言ば記録したか」

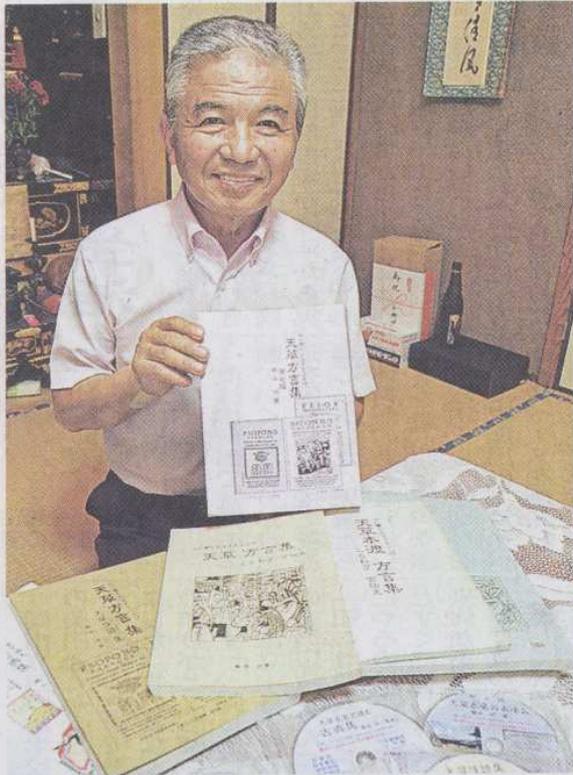
「落ちる」は「おつる」
「いくる」は「ちやくくる」

「落ちる」は「おつる」
「いくる」は「ちやくくる」
「知る」は「しる」
「知る」は「しる」
「知る」は「しる」



事て回るようになった。20代
代のころ、旧天草町の高浜
地区を訪れたときのこと。
「食へる」を「ばびふへば」
で活用する不思議な言葉を
聞いた。「はん(食へない)」「
「ぶー(食へる)」「べー
(食へる)」など。「飯や
はん。パンならぶー(ご飯
なら食へない。パンなら食
べる)」。幼児言葉と推測

鶴田 功さん (72) 天草方言集の自費出版を続ける



横顔 1941年、天草郡本村(現天草市本町)生まれ。59年に天草高を卒業。地元の書店、洋服店に勤めた後、独立して洋服店を開いた。現在は洋服リフォーム店代表。PTA会長、県青少年育成アドバイザー連絡協議会会長など、地域の活動にも携わってきた。天草方言集第7版は100部作成し、市内の図書館や小中学校、公民館などに贈った。

沿いや海岸の入り江ごとに
集落が点在。主な交通手段
は船だった。「天草」とは
勇敢に大海は隔てた国々ば
目指して船は繰り出し、外
との交流も多かったこと
との説明する。

来る言葉だった。
集めた方言を97年に「天
草方言集」として自費出版。
その後も改版を続け、今年
5月に第7版を出した。収
録された言葉は約5万語に
上る。
一方で、天草の各地域ご
との特徴は失われつつあ
る。陸上交通が整備されて
往来が増えた。「人が集ま
る本渡は、各地区の方言が
混ざり合って、折衷した言
葉になってしまった。若者
を中心に、天草弁そのもの
も話されなくなっている。
一方が失われていくと
は惜しか。次の世代に記録
ば記録したかったです」
(天草支局・辻教)

は残しとくとは今しか
か」
言葉のアクセントやニュ
アンスを開けるようにと方
言葉集をDVD化し、インタ
ーネットにホームページも
開設した。仕事は4、5年
前に子どもに引き継いだ
が、青少年育成の会合など
で各地域を回る日々は続
く。最近方言について講
演する機会も増えた。新た
な言葉の発見が今もある。
「いろんな地域は回って、
地元にも長年住んでるお年寄
りと話してみようかな。
そして、まだ知らん言葉